

く沢らしくなる。ここから上は、ナメの連続となっている。ところどころ小滝や釜があり、快適な遊行を楽しむことができた。

上流部は水量も少なくなり、平坦となってくる。途中造林地となっていて、刈り払いがなされている。左岸に上がれば道路だが、私達は流れにそって忠実に遊り、源頭にある造林地の作業道に出る。

帰路は羽黒川源流のひとつ西側の沢を下る。大沢に通じる道路から沢に降りる。源頭は流れがはっきりせず、何本かの小沢を合わせて沢らしくなってゆく。

この沢も沢床はナメである。快適に下降していく。まもなくそう角度はないが、2 m、2 m、6 mと連瀑となってナメ滝がかかる。そこを過ぎると、左岸から同水量の沢が入り、次に右、左とスラブが現われる。

沢の間はゴーロとなる。この沢のほとんどの滝はクライミングダウンで降りられるが、途中の4 m滝だけが下降できず、右岸をブッシュを利用して捲いた。全体的にはナメが続き、登って楽しめる沢のようだ。約1時間で羽黒川との合流点に到着する。

[タイム] 峠駅(9:20)→羽黒川(9:30)→人工河川終了(10:30)→踏跡(11:25)→下降開始(11:45)→羽黒川出合(12:50)→峠駅(13:35)

9. 飯豊・稜川(日当沢)

1986年9月13~15日

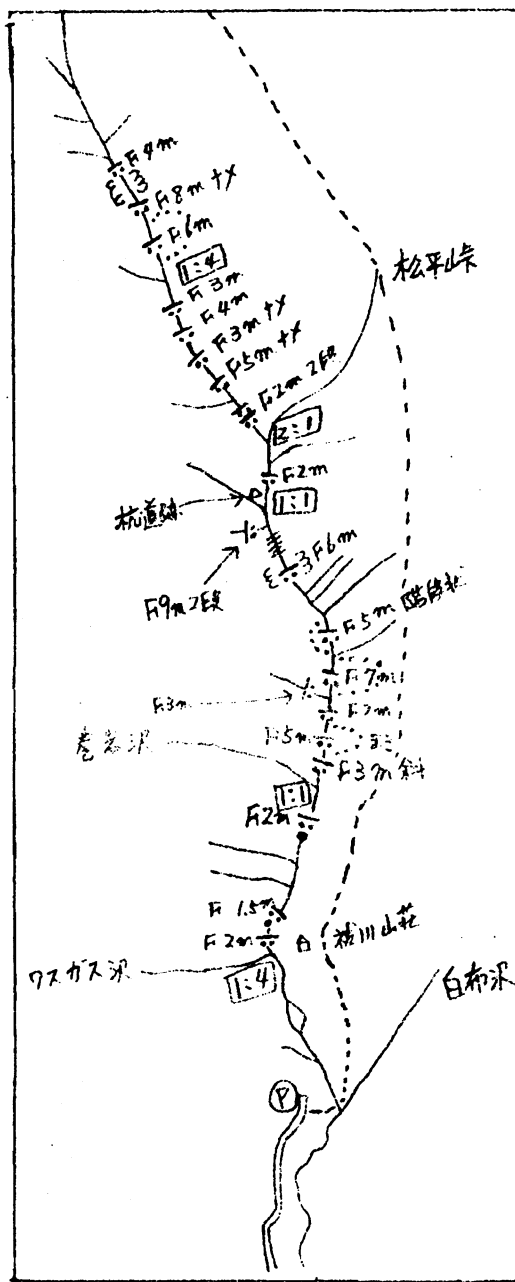
L

9月13日 福島(16:00)⇒幕営地(20:55)

地域研究と正月山行の偵察をかねて飯豊の沢に入ろうということになり、沢登り1年生の私も、幸運にもこの山行に加わることができた。初日は、福島を出発し、弥平四郎より林道終点駐車場にて幕営。

9月14日 曇時々雨。 幕営地(6:50)→出合(6:55)→ワスガス沢出合(7:20)→巻岩沢出合(7:55)→二俣・坑道跡(9:10)→稜線(12:05)→疣岩山(12:35)→三国小屋(13:10)

6時50分、幕営地発。白布沢との出合の橋より沢に入り、遊行を開始する。沢



は激しく蛇行し、中州が現われたりする。30分程でワスガス沢との出合となる。その後も小滝を数本かけるのみで、巻岩沢との出合となる。ここからやっと滝が出てきた。3mの斜瀑のあと、5mの直瀑。左岸を捲く。続く7m、階段状5mの滝も捲く。ナメが現われ、遡行開始後約2時間で、坑道跡のある二俣となる。

小休止後、右の日当沢に入る。約10分程で松平峠から注ぐと思われる沢を右に見て進む。このあと4、5mのナメ滝が現われるが、なんなく登れる。このあたりから、傾斜がどんどんきつくなり、兩岸も切り立ってくる。高度をどんどんかせいでいくと、最後は急傾斜となる。不安定な草付きを登っていくとヤブとなり、疣岩山と巻岩山を結ぶ稜線に出る。あとはヤブをこいで登山道へ。

今日は三国小屋泊まりとする。私は泊まり装備での沢登りは初めて。大型ザックを背負っての遡行はなかなかバランスがとれず、慣れるまでしばらくかかってしまいました。

9月15日 晴。 三国小屋(6:40)→疣岩山(7:05)→松平峠(7:50)→十森(8:

15)→松川山荘(9:00)→登山口(9:10)

三国小屋を6時40分に出発。昨日とはうってかわって晴天である。ここは冬スキーを使って登れるだろうかなどと話しながら下る。2時間30分程で登山口となり、今回の山行を終了。